

第1回（仮称）「漱石山房」記念館整備検討会議事 要旨

■ 日時 2012年8月25日（土） 10時00分至12時30分

■ 場所 榎町地域センター多目的ホール

■ 出席者

中山新宿区長

委員 半藤 中島 中川 石崎 半田 山岸 牧村 伊藤 沖山 中村 田中
夏山 貝田 志村 清水 桐生 江木 伊藤 江田 小林（浩）
小林（智） 松林 三又 百足山 吉川 川嶋

事務局等 加賀美地域文化部長 安河内榎町特別出張所長、吉川みどり公園課長
橋本文化観光課長 石塚文化資源係長 北見主任主事（学芸員）小泉主任主事
株式会社丹青社

■ 欠席者 小宮委員（代理出席 村瀬） 八重樫委員

■ 内容

1 開会

- ・ 開会宣言
- ・ 事務局より議事要旨・検討会通信を作成し、区公式サイト等で公開・発信するため、検討会を撮影及び録音することの許可を求め承認された。

2 委員委嘱

- ・ 区長より委嘱状を交付する。
（ご欠席の小宮里子委員については、代理の村瀬氏へ交付。）

3 区長あいさつ（要旨）

- ・ 検討会開催にあたり、皆さまのご出席をいただき、また特別委員として半藤末利子氏、本日は体調を崩されたため、代理の方に出席をいただいている小宮里子氏をお招きすることができ、大変うれしいことである。
- ・ 新宿区ではまちづくりの基本目標の一つとして「文化芸術創造のまち 新宿」を掲げ、区内の様々な文化歴史資源を掘り起こし、継承、発信していこうとしている。このなかでも最も貴重な文化資源のひとつが夏目漱石終焉の地として、区の史跡にも指定されている早稲田南町7番地の漱石山房跡地である。
- ・ 平成24年1月に策定した新宿区第二次実行計画で、漱石山房の復元を含む記念館整備を進めていくことを決定している。また、平成19年の漱石生誕140周年の記念事業以来漱石山房の復元に取り組んできた。
- ・ この記念館では漱石やその作品を顕彰するとともに、漱石山房を復元して目に見える形にすることによって、この地で国民的文豪である漱石が暮らし、名作を執筆し、弟子たちと交流したことを大切な土地の記憶として、後世に受け継いでいきたいと考えている。また、多くの人に繰り返し訪れてもらえる新宿の文化・観光拠点としても整備していきたいと考えている。
- ・ 本日の検討会には文化芸術振興や地域活動などさまざまな分野で活躍されていたり、漱石を愛する方々に参加いただいている。
- ・ この土地の記憶をみなで共有していくことが、街への愛着や誇りを育てると考えている。皆さまの力をいただき、記念館の整備のあり方を示す基本計画について、幅広く深い議論をお

願いたい。

- ・皆様には快く検討会委員を引き受けていただいたことを改めて感謝申し上げます。

4 特別委員あいさつ（要旨）

（1）半藤末利子氏

- ・漱石山房を見たことがない。どういうものだったかが頭の隅にあったらお役に立てるがそういう点では難しい。
- ・区長の熱意でここまで事が運んできた。実現に向け良いものをつくって頂きたいという思いである。
- ・復元については、漱石山房と言われた漱石の書齋とおそらく10畳と思われる弟子たちが集まった場をつくれればよいと思う。
- ・できるだけ限りなく当時に近いものをつくることに目標を置いて復元をしていただけたらうれしい。
- ・施設を維持管理して行くのは大変なことである。山房だけを見てお帰りいただくにはあまりに資料が少なく、この建物だけでリピーターが付くとは思えない。リピーターを徐々に増やして行く工夫が必要で、継続的に来ていただかないと施設は長続きしない。
- ・喫茶室もあるといいと思う。そこで作品の中に出てくるような菓子を提供して、お土産として売れるようになると良いと考える。菓子の味は大事である。漱石の名のつくもので美味しいものがなかったことがないので、安かろう悪かろうではなく、よいものを入れるのがよい。
- ・講演ができる場、喫茶、茶室に使える場所なども併設できるとよい。大きいスペースで漱石山房・展示物を見て、施設を貸し出して費用を取るなど、長く続けるには資金が大切である。よろしく願いたい。

（2）小宮里子氏（親族がメッセージを代読）

- ・ここにいたるまで、区の関係者の方の熱意があって具体的に進められるところまで運んでこられたことに感謝申し上げます。
- ・縁の地に漱石の資料が集められ、研究者、愛読者、これから教科書などで漱石を学ぶ学生など、幅広い人々が集まることを期待している。
- ・木曜会は幅広い多彩な才能を持つ弟子たちが集まってきたところであり、そこでは漱石を中心として交流し、その交流を通して学びあい、お互いに高め合う関係があったと思う。それが人としての幅を広げただけでなく、各自の研究を深める行動の原動力になっていたと思う。特に若い世代にこの交流の大切さを伝えられると良いと思っている。
- ・検討委員のさまざまな意見を頂き、皆様に親しまれる、より良い施設になることを願っている。

5 委員紹介

- ・各委員に自己紹介をいただく。

6 事務局紹介

7 事業概要説明

- ・資料「（仮称）「漱石山房」記念館整備事業の概要について」に基づき、事務局より事業概要を説明。

8 基調講演（要旨）

（1）中島国彦委員（早稲田大学文学学術院教授・近代文学）

- ・長く漱石山房復元の話はあったが、やっと復元が実現するところまで来た。大変うれしい。早稲田大学に入学してすぐに漱石公園を訪れた経験がある。漱石との関わりは、江藤淳編の『朝日小辞典・夏目漱石』を手伝ったことから始まる。
- ・その後、新宿区が『道草』の草稿を購入したという話を聞いた。この草稿は、当初、林原耕三が所蔵していたものを区が購入したものだと思うが、近代文学館が伊勢丹で開催した『夏目漱石展』でも展示された。その展示にも関わったが、75章には反古が沢山あった。これは、漱石が執筆に迷ったことを示すもので、全集には活字で収録されているが、草稿の画像は公表されていない。こうした資料を公開できるようにしていけるとよい。
- ・全国で個人の名前がついた文学館は少ない。資料が遺族から寄贈されても活かされないこともある。土地が確保されないと難しい。
- ・吉井勇の資料が京都市に寄贈されたが、市・府の文学館はないので、京都府立総合資料館に保存されている。文学系学芸員がいないので、活用がされにくい。
- ・求龍堂の『夏目漱石遺墨集』の編集にあたり、純一さんに石崎等さんと高輪のお宅でお目にかかった。遺品を見せていただいたが、遺品は神奈川文学館に行ったり、原稿は駒場の文学館とちらばっている。
- ・基礎調査は山房復元を前提にしているので、現在分かっていることを分類してくれているので役立つ。書齋と客間が8畳か10畳かについて基礎調査にて木曜会メンバーの書籍や、文献などの調査を行って来て弟子達の記載によると10畳が有力だが、純一さんに会って話を聞いたところによると8畳という話もあり曖昧である。いろいろな記録が残っているが、誰かが書いていることの引用など二次的な情報も多く、今後も調査を継続していく必要がある。
- ・漱石山房復元については、新宿区が動き出してやっている、ということが広く認知されていることが大事。そこから関係者からの申し入れなどの機運が出てくる。
- ・山口県の嘉村磯多記念館、茨城県の長塚節生家のように、すでにモノとして建物がある施設とは異なり、今回は建物を復元しようということである。また、建物はなく、集まった資料を展示しよう、という施設など、タイプの違いもある。
- ・本施設をリピーターが来てくれるようなもの、漱石のことがここにいけば何でもわかるところ、としたい。
- ・漱石に詳しい人は一般の方々に多い。民間の漱石愛好者の方とはとても物知り。そういう人たちと交流するときは緊張するほど。そういう人たちにも期待してもらえるようなレベルの高さがあってほしい。ホームページの充実も必要。外国の人にとっても必要である。彼らが困るのは漱石のことを調べたいと思ったときに、アクセス先がわからないこと。そのときに漱石だったらここ、というものがあってほしい。外国ではレベルの高い漱石研究がなされている。
- ・集まってきた皆さん方の山房への期待が積み重ねられて行く半年であるとよい。
- ・出来上がった後も大事。その後の運営についても話し合いができるとよい。

（2）中川 武委員（早稲田大学理工学術院教授・建築史学）

- ・松山、熊本、千駄木（明治村に移築）に旧居など漱石関連のものがあるが、新宿区の漱石山房は生誕の地に近いということ、終の住処であったことを考えると非常に重要。
- ・漱石は文学に関係ない人も読んでいます。
- ・人間は好むと好まざるとに関わらず受け入れなければならないことがある。それが当時の人間に取っては近代であった。近代は必ずやって来る、それをまともに受け入れ、苦悩をしたのが漱石。写真で残っている何とも言えない顔で書齋にいる漱石、ベランダにいる漱石によ

く表れている。

- ・漱石はもともとその家が好きではなかったという記述もあるが、それもふまえた写真の表情なのかもしれない。
- ・基礎調査報告書は本当に素晴らしい。現段階において集まったデータが整理されている。
- ・最も重要な客間と書斎が8畳か10畳かの相違も関係者の思いで語られている。これは写真測量学を用いることで有効に判断出来る。しかし図面等の資料がなかなか見つからない。遺族の方がそれを移築されることで建築家に調べを依頼したが、その資料が散逸して戦災に合ってしまったようだ。
- ・漱石山房は、当初、洋行帰りの医者住宅であった。明治中期から後期に造られた建物であるが、江戸末期から明治初期の大工たちの技術で造られており、類推することは可能である。
- ・ベランダの手摺りの外側にガラス戸を入れているが、詳細なおさまりは不明で、今後の調査課題である。
- ・施設計画も受け入れざるを得ないことはたくさんある。しかし、それをそのまま受け入れていいかどうかは、検討が必要である。
- ・技術的な課題に加え、街並みのなかに漱石が生きた、煩悶した記憶を埋め込んで行くこと。それを、建築の中に復元するのか、まちのなかに置くのは、重要な課題。「まち」は個性的でさまざまな個性が重層的にあるべきである。均質なものではだめ。「まち」としての魅力づくりが必要である。
- ・専門の立場からいろいろ言うが、検討会に参加している方は地域代表、出来たら終わりではなくサポーターになってほしい。

9 座長選出

- ・要綱第5条第1項及び第2項の規定に基づき、中島委員が座長として選出された。また、中島座長より副座長に中川委員が指名された。

(1) 中島座長挨拶

- ・教員として教壇に立っていると、見えるところと見えないところがある。一般の人が漱石をどう思い、記念館に何を期待してどう思っているのか分からない部分もある。
- ・この場で皆様にご意見を伺いながらまとめていきたいと思う。
- ・3月までに基本方針、特にどの様な建物を作るのかを決めなければならない。短期決戦なので是非アイデアを沢山出して頂きたい。一言も話さないで帰ったということがないようにしたい。

10 検討会の進め方と次回の告知

- ・(仮称)「漱石山房」記念館整備検討会 全8回のスケジュール」を説明し、概ねこのスケジュールに基づいて検討会を進めていくことを確認。
- ・次回は9月9日(日)13時30分より、榎町地域センターで開催を予定。
- ・森鷗外についてはスケジュール以外の番外編ということで見学を予定していきたい。
- ・基礎資料調査報告書のバージョンアップをはかっていきたいので、気づいた点は事務局まで伝えていただきたい。